

言語による表情表出が歌唱に及ぼす影響

教育学研究科 教育実践創成専攻 教科領域実践開発コース 中等教科教育分野 猪又光貴

1. はじめに

数年前、新型コロナウイルスの影響により歌唱活動が制限されていた。現在では新型コロナウイルスの影響が収まり、歌唱活動の制限が緩和されている。しかし新型コロナウイルスが生徒に与えた影響は大きく、生徒の歌唱に関する様々な力が低下していることが考えられる。特に技能に関する面で大きな影響を受けているだろう。本研究では歌唱での技能に焦点を当て、生徒の技能を高める方法について模索していく。

2. 研究動機

国立教育政策研究所は全国の中学校第3学年の約1000人の生徒を対象に、歌唱実技に関する調査を実施した。主な調査内容は生徒1人1人に課題曲を歌わせ、録音したものを音高、音価、強弱、豊かな表現の4つの観点で採点するものである。豊かな表現について国立教育政策研究所は、①主体的・意欲的な表現、②音のつながり、③自然な抑揚（速度や強弱の変化など）、④声の音色（思いや意図が声に表れているかなど）、⑤フレーズのまとまり、⑥曲全体の構成感と定義づけている。調査結果によると、正しい音高や音価で歌うことができる生徒の割合は高いが（音高：約6割、音価：約8割）、強弱や豊かな表現を意識して歌うことができる生徒の割合がともに3割と低いことがわかった。

また今年度の実習でお世話になった甲府市内の公立中学校第3学年の実態でも同様に、音高や音価を意識して歌うことができる生徒が多い反面、強弱や豊かな表現を意識して歌うことができる生徒が少ない状況であった。特に豊かな表現に関しては、多くの生徒が苦

戦しているように感じられた。その理由として、音高や音価に気をつけて歌うことを意識しすぎてしまい、自ら表現して歌うことが習慣化していないことが考えられる。

これらのことを踏まえ、今後私自身が音楽教員として授業作りをしていく際に、どのような指導を行うことで生徒に豊かな表現を育ませることができるのかと考え、研究を始めた次第である。

3. 先行研究

実際にどのような指導ができるのか考えていた折に、片上聡美・虫明眞砂子（2020）の研究を発見した。この研究は、歌唱実験及び歌唱者へのアンケートを通して表情が発声にどのような影響を与えるのかを明らかにするものである。歌唱実験とは被験者に4つの表情（無表情・怒り・悲しみ・笑顔）で歌わせ、無表情と喜怒哀楽の表情による声の変化を調べるものである。被験者は大学生である。実験結果として、歌唱者のアンケートより無表情、怒り、悲しみの3つの表情のそれぞれにデメリットが見られたが、笑顔にはデメリットが見られなかった。このことから笑顔が発声に効果があることが明らかになった。さらにこの研究では、笑顔を3段階（微笑み・口を横に開いた笑顔・口を縦に開いた笑顔）に分け、被験者に3段階の笑顔で歌わせ、笑顔の段階の違いによる声の変化を明らかにする歌唱実験も行った。被験者は小学生から大学生である。実験結果として、口を縦に開けた笑顔には多くのメリットがあることがわかった。これらのことを踏まえ、口を縦に開けた笑顔が発声に最も効果があることが明らかになった。

4. 研究の目的

先行研究より、表情が歌唱に良い効果を与えられるということが検証された。しかし、先行研究では表情が豊かな表現に繋がることは検証されていない。そこで本研究では、表情が豊かな表現に繋がるのかを明らかにしたい。また先行研究では表情を笑顔や怒りなど感情に関するものとして捉えていたが、本研究では表情を口や目などの顔のパーツとして捉え、生徒同士で言語を通して歌唱時の表情について考え、意識して歌うことで豊かな表現に繋がるのかを検証していく。

5. 研究の方法

以下の2つの分析を行い、生徒の豊かな表現が高まったのかを検証する。

- (1)ワークシートに記入した内容を分析する
- (2)表情を意識していない演奏と表情を意識している演奏を比較し、分析する

6. 実践内容

(1)授業概要

授業数は全3時間で、期間は令和6年9月である。対象は甲府市内の公立中学校第3学年の1クラス31名である。題材曲として《聞こえる》を用いた。《聞こえる》とは1991年に岩間芳樹（作詞者）と新実徳英（作曲者）によって作られた混声4部版の合唱曲である。

(2)第1時

時間	学習活動	教師の働きかけ
導入 (10分)	○合唱曲を聴く (10分) ・楽譜を眺めながら聴き、曲に込められた思いを考える ・曲について知る	・選択肢の中から選ばせる（理由も記入させる） ・「聞こえる」が作られた背景について伝える
展開 (30分)	○パートごとに音取り(15分) ・CDを用いてパートごとに音取りを行う ○全体で練習する (15分) ・GとHを練習する	・各パートを回りながら、音程やリズムなどを指導する ・音程やリズム、強弱などについて指導を行う
まとめ(5分)	○振り返りを行う (5分)	・ワークシートに記入させる

第1時の授業のめあてを「曲の背景について理解しよう」と設定した。背景や思いを理解することで、生徒に曲への興味を持たせ、

ただ歌うのではなく目標を持って歌ってほしいことがねらいである。

導入部分では、曲に込められた思いを考え、ワークシート（図1）に記入する活動と、曲の背景を知る活動を行った。前者の活動では選択形式を取り入れ、生徒が取り組みやすくなるようにした。また選択形式だけでは生徒が思いつきで選択しまう恐れがあるため、理由についても考えさせ、根拠を持って選択できるように工夫した。

展開部分では、パートごとの音取り活動と、全パートによる合わせ練習を行った。まず音取り活動ではパートごとにCDを用いてパートリーダーを中心に練習を行わせた。また各パートを回りながら音程やリズムに関する指導を行い、生徒の様子を見て音取りが難しい部分では教員自身がピアノを用いて指導を行った。そして合わせ練習ではパートごとにまとませ、音程やリズムに加え、強弱に関する指導を行った。生徒の様子を見ると、何回か練習を行うことで音程やリズムを正確に歌えるようになり、また強弱に関しても教員が声掛けなどを行うことで意識して歌うことができていた。

曲の背景について理解しよう

3年 組 番 名前 ()

『聞こえる』 作詞：岩間芳樹 作曲：新実徳英 編曲：新実徳英

○この曲に込められた思いを漢字で表すと、どれに当てはまるのか考えよう

1 葛藤 2 前進 3 不安 4 願望

・選んだ理由を書こう

○今回の授業を受けて気づいたことを書こう

図1：第1時のワークシート

(3)第2時

時間	学習活動	教師の働きかけ
導入(5分)	OGとHを歌う ・全体で歌う	・発声練習を行い、歌う準備をさせる ・全体の演奏を録音する
展開(35分)	OGとHについて考える ・どこが一番の盛り上がりなのかを考える(理由も) ・GとHでは主人公が何を教えてほしいと思っているのか知る(その時の気持ちを考えさせる) ・ワークシートに記載されている部分の歌い方(表情)を考える ○考えた部分を取 ・全体で表情を確認した後に、全パートで練習する	・GからHまでの楽譜が記載されているワークシートに記入させる ・曲の背景をワークシートに記載して、理解させる ・穴埋め形式にして、生徒が取り組みやすくなるように工夫する ・歌い方を生徒と一緒に確認しながら練習を行う
まとめ(5分)	○振り返りを行う	・ワークシートに記入させる

第2時の授業のめあてを「楽譜から表現の工夫を考えよう」と設定した。強弱を意識して歌うことの大切さや、表情を意識して歌うと変化があることに気づかせたいことがねらいである。

導入部分では、ウォーミングアップとして発声練習を行った後に、題材曲のGとHの部分で構成されており、GとHは後半部分である。GとHは本研究の比較の対象となる部分であるため、この部分の演奏を録音している。

展開部分ではGとHについて考える活動と、考えたことを試す活動を行った。まず考える活動では3つの内容を行った。まず1つ目はGとHの歌の部分に記載されたワークシートから1番盛り上がっている部分を探すものである。この活動では、強弱と歌詞に注目させて取り組ませた。またこの内容は3つ目の内容に繋げるものである。次に2つ目はGとHに込められた思いを考えるものである。この活動は1時間目に行った内容と関連させており、曲の背景を基に考えさせている(図2)。この活動から曲の背景を振り返らせることが目的の1つである。その他にもGとHに登場する主人公の気持ちについて考えさせることも目的である。そして3つ目は曲の1番盛り上がっている部分の歌い方を考えるものである。強弱を基に歌い方を考えられるように穴埋め形式を取り入れている(図3)。ま

た考えることが苦手な生徒が取り組みやすくすることも目的としている。そして全パートで共通して歌うことができるように、個人で考えたものを全体の場に出させ、板書したものを記入させた(図3)。

試す活動では、生徒が考えた歌い方を試させたり、生徒が考えた歌い方がどのような感じなのかイメージを持たせるために、教員が実演して伝えたりした。実際に実演を取り入れることで、生徒の反応が良く、熱心に聴いているのが感じられた。また生徒の演奏を聴いてみると、第1時の時よりも強弱を意識して歌っているのが伝わり、成長しているのが感じられた。しかし、恥ずかしさなどから、表情を意識して歌っている生徒が少ないように感じられた。

楽譜から表現の工夫を考えよう

3年 組 番 名前 ()

○GとHでは主人公が何を教えてほしいと思っているのか知ろう

○曲の背景
世界から聞こえてくる情景(ベルリンの壁崩壊、森林破壊など)を前にして、自分が何もできないことに對していらだちを覚え、弱々する若者の姿が描かれている

世界から聞こえてくる様々な情景に對して、自分ができることを教えてほしいと思っている

この時の気持ちを漢字で表すと

○強弱に注目して考えよう

強弱はG(フォルテシモ)に向かって _____ なっている。
そこから世界の様々な情景に對して、自分ができることについて教えてほしい主人公の気持ち
が _____ ことがわかる。
この気持ちを表現するために、口や目を _____ して
歌う。またアクセントテヌートやアクセントでは、1回1回口や目を _____
_____ して歌う。

強弱はG(フォルテシモ)に向かって _____ なっている。
そこから世界の様々な情景に對して、自分ができることについて教えてほしい主人公の気持ち
が _____ ことがわかる。
この気持ちを表現するために、口や目を _____ して
歌う。またアクセントテヌートやアクセントでは、1回1回口や目を _____
_____ して歌う。

図2：第2時のワークシート

強弱はG(フォルテシモ)に向かって だんだん強く なっている。
そこから世界の様々な情景に對して、自分ができることについて教えてほしい主人公の気持ち
が だんだん大きくなっていく ことがわかる。
この気持ちを表現するために、口や目を だんだん大きく して
歌う。またアクセントテヌートやアクセントでは、1回1回口や目を 開いた
とびだす して歌う。

図3：考えをまとめたワークシート

(4)第3時

時間	学習活動	教師の働きかけ
導入(10分)	○合唱団の演奏を聴く ・合唱団はどのように表情を意識していたのか考える	・GとHの部分で歌っている映像を流し、ワークシートに記入させる
展開(25分)	○パートごとに練習する ・どのような表情で歌うのかなどを考え、練習する ○全パートで歌う ・各パートで考えたことを基に全体で歌う	・パートごとにA3版の楽譜に考えたことを書き込ませる ・全体の演奏を録音する
まとめ(10分)	○振り返りを行う ・2時間の演奏と3時間目の演奏の違いを聴きとる	・声がどのように変わったのか聞き取らせ、感じたことを記入させる ・表情を意識して歌ってみて感じたことも記入させる

授業のめあてを「表情を意識して曲に込められた思いを表現しよう」と設定した。表情を意識して歌うことで、強弱や歌詞に込められた思いなどが表現しやすくなることを生徒に気づかせることがねらいである。

導入部分では、合唱団の歌唱時の表情について考えさせる活動を行った。合唱団の演奏動画を見る際に生徒に楽譜を開かせ、強弱や歌詞に応じて表情がどのように変化しているのかなどに注目させ、ワークシート(図4)に記入させた。また他の視点を得ることができるよう、周りの人と共有する時間を設け、ワークシートに記入させている。

展開部分ではパートごとにGとHの部分の歌い方を考える活動と、考えたことを表現する活動を行った。考える活動ではパートごとにA3に拡大した楽譜を渡し、どのような表情で歌うのかなどを記入させた。その際に第2時で使用したワークシートと導入部分で見た合唱団の演奏を参考にさせ、取り組ませた。生徒の様子を見ると、具体的に表情を記述しているパートや、表情で気を付けるところを丸で囲んでいるパートなどが見られた。また考えたことを表現する活動では、パートごとで考えたことを踏まえ、全パートで合わせて歌う活動を行った。ここでの演奏は、2時間目の導入部分の演奏と比較するために録音した。また、歌い終わった後にパートごとに

自分たちの演奏を振り返らせる時間を設けた。振り返りを通して、生徒自身に自分達の演奏への成果や課題について発見してほしいことが目的である。生徒の様子を見ると、どのパートも自分たちの演奏に対する成果や課題について見つけられているように感じた。また生徒の演奏を聴くと、第2時よりも表情を意識して歌うことができていた生徒が多く見られ、それぞれのパートが拡大楽譜に記入したことを意識し、表現して歌っているのが伝わってきた。

まとめの部分では、2時間目の導入部分で録音した演奏と3時間目の展開部分で録音した演奏を比較する活動を行った。この活動を通して、表情を意識して歌うことで自分たちの歌唱にどのような変化が出たのか考えさせ、表情を意識して歌うことの必要性を生徒自身に気づかせたいと考えた。そして最後に授業のまとめとして表情を意識して感じたことについて自由に記述させた。

表情を意識して曲に込められた思いを表現しよう

3年 組 番 氏名 ()

○合唱団がどのような表情で歌っているのか考えよう

自分の考え	他の人の考え

○2時間目と3時間目の演奏を聴き比べて、感じたことを書こう
→また表情を意識して歌ってみて感じたことも書こう

図4：第3時のワークシート

7-1. ワークシート分析

第3時に記述させた「2時間目と3時間目の演奏を比較して感じたことを書こう」、「表情を意識して歌ってみて感じたことも書こう」という2つの間に対する生徒の記述内容について分析していく。

まず「2 時間目と 3 時間目の演奏を比較して感じたことを書こう」という問いについて分析していく。図 5 は生徒の記述を割合に示したものである。「3 時間目の演奏が良い」という旨の内容を記述した生徒の割合が 96% となっており、「どちらも改善点がある」と記述という旨の内容を記述した生徒の割合が 4% となっている。このことからほとんどの生徒が 3 時間目の演奏の方が良いと感じていることが分かる。

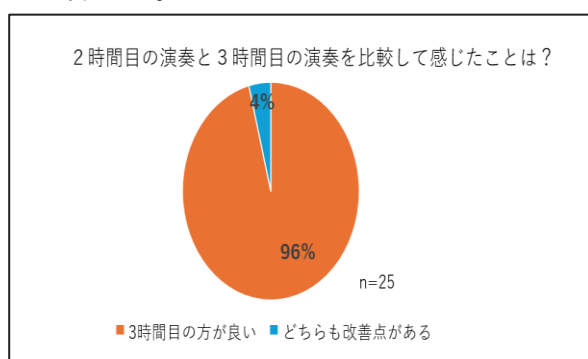


図 5：生徒の記述内容の割合

実際に「3 時間目の演奏が良い」という旨の内容を記述した生徒の 2 時間目と 3 時間目の演奏に対する記述内容の変化について見ていく。例として 6 名の生徒の記述内容を紹介していく。まず A さん、B さん、C さんの記述内容について挙げていく(図 6)。それぞれの記述内容を見ると、2 時間目の演奏に対して A さんは「歌詞をはっきり歌えていない」、B さんは「声が小さくて何も聞こえない」、C さんは「強弱があまりついていない」と記述していた。このことからそれぞれが 2 時間目の演奏に対して課題があると感じていることが分かる。次に 3 時間目の演奏に対しては、A さんは「全体的に歌詞をはっきりと歌えている」、B さんは「言葉の最後の高く伸ばすところは、しっかり聞こえるようになった」、C さんは「強弱がはっきりして、最後の盛り上がる感じが表現されている」と記述していた。このことからそれぞれが 3 時間目の演奏に対して成果を感じていることがわかる。2 時間目と 3 時間目の記述内容を比較すると、3 名

とも 2 時間目で記述された課題点が 3 時間目で改善されていることが見取れる。

2 時間目の演奏 (表情を意識していない演奏)	課題
Aさん 歌詞をはっきり歌えていない	歌詞をはっきり歌えない
Bさん 声が小さくて何も聞こえない	音量が小さい
Cさん 強弱があまりついていない	強弱がついていない

↓ 2 時間目で記述されていた課題点が改善されていることがわかる

3 時間目の演奏 (表情を意識している演奏)	成果
Aさん 全体的に歌詞をはっきりと歌えている	歌詞をはっきり歌える
Bさん 言葉の最後の高く伸ばすところは、しっかり聞こえるようになった	音量が大きくなる
Cさん 強弱がはっきりして、最後の盛り上がる感じが表現されている	強弱をつけることができる

図 6：生徒の記述内容

次に D さん、E さん、F さんの記述内容について挙げていく(図 7)。それぞれの内容を見ると、2 時間目の演奏に対して D さんは「声が小さめで、違うパートとのまとまり感がない」、E さんは「強弱記号を意識できていない」、F さんは「強弱があまりできていない」と記述していた。先ほどの A さんたちと同様に 2 時間目の演奏に対して課題があると感じていることが分かる。次に 3 時間目の演奏に対しては、D さんは「声が大きくなって、音色も少し明るめに聞こえる。のばしている音がそろっている」、E さんは「強弱記号を意識できている。また感情があわさって聞こえる」、F さんは「強弱がしっかりできていて、最後の盛り上がる感じが表現されている。最後の伸ばすところがそろっていて音がきれい」と記述していた。このことからそれぞれが 3 時間目の演奏に対して成果を感じていることがわかる。2 時間目と 3 時間目の記述内容を比較してみると、3 名とも A さんたちと同様に 2 時間目で記述されていた課題が改善されているが、さらに新たな成果を得ていることが見取れる。例えば E さんの場合では、2 時間目に課題と感じていた強弱記号を意識することが改善されたことに加え、感情を込めやすくなったことが挙げられる。これらが 6 名の記述内容からわかったことである。

2時間目の演奏（表情を意識していない演奏）		課題
Dさん	声が小さめで、違うパートとのまとまり感がない	声量が小さく、一体感がない
Eさん	強弱記号を意識できていない	強弱記号を意識できていない
Fさん	強弱があまりできていない	強弱がつけられていない

↓

課題点を改善できるだけではなく、
新たな成果も出てくる

3時間目の演奏（表情を意識している演奏）		成果
Dさん	声が大きくなって、音色も少し明るめに聞こえる。のぼっている音がそらっている	声量が大きく、音色が明るくなる 一体感がある
Eさん	強弱記号を意識できている。また感情があらわさって聞こえる	強弱記号を意識できる、感情を込めやすい
Fさん	強弱がしっかりできていて、最後の盛り上がる感じが表現されている。最後の伸ばすところがそらっていて音がきれい	強弱がつけられる、一体感がある、 音色がきれい

図7：生徒の記述内容②

そして「どちらも改善点がある」という旨の内容を記述した生徒の記述内容について紹介する。Gさんは「2時間目と3時間目の演奏がどちらも声がピアノよりも小さかったり、Humが全然できていなかった。また3時間目の「ラララ」のところがただ叫んでいるように聞こえた。」と記述していた。生徒の記述内容を見ると、声量と音色に関する課題点を記述し、自分たちの演奏を分析していることがわかる。実際に録音を聞き返してみると、この生徒が言いたいことも伝わってきた。Gさんの意見をしっかりと受け止め、これからの研究に活かしていきたいと考えた。

最後に表情を意識して歌ってみて感じたことを書こうという問いについて分析していく。図8は生徒の記述内容をグラフで示したものである。強弱に関することを記述した生徒が10人、歌詞に関することを記述した生徒が6人、声量に関することを記述した生徒が4人、音色に関することを記述した生徒が3人、感情に関することを記述した生徒が1人、無記述が1人となっている。

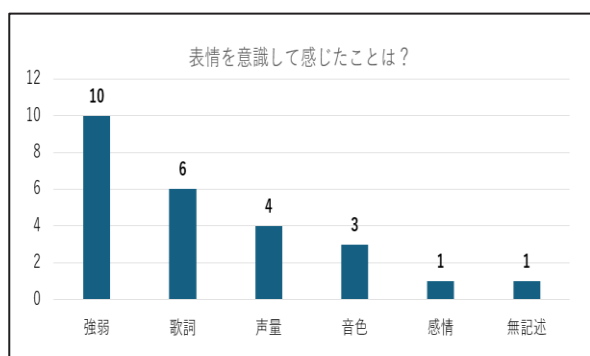


図8：記述内容別の人数

次にグラフで示した項目の具体的な記述内容を分析し、本研究の目的である豊かな表現(図9)に当てはまるのか見ていく。

○豊かな表現
①主体的・意欲的な表現
②音のつながり
③自然な抑揚（速度や強弱の変化など）
④声の音色（思いや意図が声に表れているかなど）
⑤フレーズのまとまり
⑥曲全体の構成感

図9：豊かな表現をまとめたもの

まず強弱という項目では「強弱の変化を意識して歌うことができる」、「(楽譜に記譜された)強弱記号を意識して歌える」という2つの記述内容が見られた。2つの記述内容を分析すると、前者の記述内容は豊かな表現の③自然な抑揚(速度や強弱の変化)に該当するため、豊かな表現に当てはまることができる。一方後者の記述内容は豊かな表現の条件には当てはまらないとわかる。また前者の人数が7人、後者が3人であった。次に歌詞という項目では「歌詞の内容に入ってしっかり歌える」、「歌詞の内容を込めて歌える」などと、歌詞の内容を表現することができるという記述が見られた。これらの記述内容は、歌詞から感じ取った思いを表現することができると言い換えられる。これは豊かな表現の④声の音色(思いや意図が声に表れている)に該当するため、豊かな表現に当てはまることがわかる。また声量という項目では「迫力が増す」、「声がしっかり出る」、「声が大きくなり、強くなる」という記述内容が見られた。この記述内容は発声に関することであるため、豊かな表現に当てはまらないことが分かる。そして声色に関する項目では「声色が少し明るくなる」、「声がより豊かになる」、「やさしく、なめらかに歌える」という記述内容が見られた。これらの記述内容は声の音色に関することであるため、豊かな表現に当てはまることがわかる。最後に感情という項目では「感情を表現しやすい」という記述内容が見られた。この記述

内容は曲から感じ取った思いを表現することができると言い変えられる。これは豊かな表現の④声の音色(思いや意図が声に表れている)に該当するため、豊かな表現に当てはまることがわかる。

これらのことを踏まえ、改めてグラフで示すと図10のような結果になった。豊かな表現に関する内容を記述した生徒が17人、声量に関する内容を記述した生徒が4人、強弱に関する内容(強弱記号を意識できる)を記述した生徒が3人、無記述が1人となっている。このことから表情を意識することで豊かな表現に繋がると感じた生徒が17人であることがわかった。

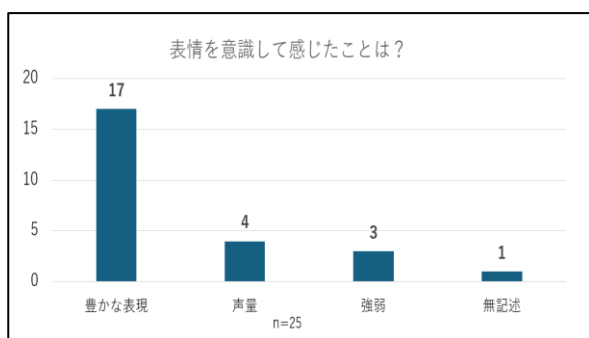


図10：記述内容別の人数

7-2. 録音の分析

2時間目と3時間目の演奏を比較すると、各パートにおいて明確な変化が見られた。まず、ソプラノについては2つの変化が確認された。1つ目は声量の変化である。2時間目ではソプラノの声がほとんど聞こえなかったが、3時間目では生徒が楽譜に「口を大きく開ける」と書き込んだ部分を意識して歌うことで、声量が増し、はっきりと聞こえるようになった。2つ目は強弱の変化である。2時間目ではクレッシェンドが十分に表現されていなかったが、3時間目では生徒が楽譜に「だんだん大きくする」と書いた部分を意識した結果、クレッシェンドの表現が向上した。

次に、アルトでは声量の変化が見られた。2時間目ではアルトの声がかすかにしか聞こえなかったが、3時間目では生徒が楽譜に「1音1音を大きく」と書いた部分を意識するこ

とで、声量が増し、さらに歌詞が明瞭に聞こえるようになった。

テノールでは強弱と音色の変化が見られた。2時間目ではクレッシェンドを十分に表現できず、また音色も暗かったが、3時間目で図の部分に丸をつけて意識して歌うことで、クレッシェンドを表現でき、音色も明るくなっていた。

多くのパートがそれぞれ考えた表情で歌うことで、思いや意図を表現でき、また音色が変化するなどと、豊かな表現に繋がることが分かった。

8. 成果と課題

本研究での成果と課題についてまとめていく。まず成果として2つ挙げられる。1つ目は多くの生徒が表情を意識して歌うことで、良い効果が出ると実感していたことである。実際に生徒のワークシートから、強弱の変化を意識して歌える、歌詞の内容を込めて歌えるなどの記述が見られた。次に、2つ目は3時間の授業を通して、多くの生徒が成長しているのが感じられたことである。最初は音程やリズムを意識した演奏になっていたが、次第に音程やリズムだけではなく、自身の思いや意図を表現することができるなどと、豊かな表現を意識した演奏に変化していた。

そして課題として3時間という短い時間では生徒に豊かな表現を身につかせることが難しいことが挙げられる。3時間でも生徒の歌唱に影響を与えることはできたが、確実に豊かな表現を身に着けさせることは厳しかった。そのような問題を改善するためにも、常時活動を取り入れていくことが必要だと考えた。常時活動について「教育音楽」(2011)は、毎時間の授業の冒頭を使って、継続的な音楽の力をつけていくものだとして定義づけている。このように継続的な活動を取り入れることで、豊かな表現に繋がるのではないかと考えた。今後は常時活動を視野に入れて研究していきたいと考えている。

9. 参考・引用文献

- ・片上聡美、虫明眞砂子（2020）「歌唱時における表情と発声に関する研究」『岡山大学教師教育開発センター紀要』10, pp.123-137
- ・教育音楽小学版編集部（2011）「特集 確かな力をつける！ 常時活動のアイデア」『教育音楽小学版（月刊版）』第66巻第11号, pp.29-43, 音楽之友社
- ・国立教育政策研究所（2010）特定の課題に関する調査（音楽）調査結果
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/tokutei_onga/ku/houkoku_zentai_001.pdf
- ・正進社（編）（2020）『混声合唱曲集「コーラスフェスティバル」』, 正進社
- ・佐野義彦（2015）「音楽表現力を向上させるための言語活動のあり方—グループ活動に着目して—」『山梨大学 教職大学院の研究活動平成26年度 教育実践研究報告書』
- ・宮澤雅子（2020）『生徒と生徒のドラマを築く！大妻中野流 合唱指導メソッド』, 音楽之友社
- ・文部科学省（2017）『平成29年度 中学校学習指導要領解説 音楽編』

謝辞

この研究を遂行するにあたり、丁寧なご指導を賜った、山梨大学教職大学院総合研究部教育学域教育実践創成講座 樋川裕幸准教授に心よりお礼申し上げます。

そして日頃からさまざまなご助言、ご指導くださった実習校の先生をはじめとする諸先生方に心より感謝申し上げます。